

令和3年度 静岡県森林・林業技術研究発表会講評

審査委員を代表し、令和3年度静岡県森林・林業技術研究発表会の講評を申し上げます。

初めに、発表者の皆様におかれましては、多忙な業務を熟す中でのコロナ禍において、日々問題意識を持ち、技術の研鑽に努められ、今回、発表されたことに、深く敬意を表します。

また、発表者を支援していただきました職場などの関係者の皆様に御礼申し上げます。

この発表会は、森林との共生に関する技術の向上や森林・林業に係る産官学等が連携した研究開発や取組の推進及び、その成果の普及を目的に開催するもので、今回で50回の節目を迎える発表会となりました。

今年度は審査対象の発表が14件となり、発表の内容から2つの部門に分けて審査いたしました。1つは、治山や林道事業などに関する発表とする「治山・林道部門」で、6件の発表があり、もう1つは、森づくりや林業振興などに関する発表とする「森林・林業部門」で、8件の発表がありました。

発表は、民間及び民間との共同発表が6件、県からは8件となっており、その内容は、公共工事や事業の効果、新技術の導入など、様々な分野や視点から発表が行われました。

それでは、全体的な講評について申し上げます。発表全体の講評として2点ほど申し上げます。

1点目として、「発表内容の創造性」であります。

現在の森林・林業の課題や日常業務における問題点や新たな取組等について実態調査を踏まえ、分析検討を行い、よくまとまった発表が多く見受けられました。

また、林業技術者の方が実際に直面している、災害への対応やこれまでの取組の振り返りによる新たな考察、森林資源の利活用など、時事をとらえた研究が多くありました。

2点目として、「考察、研究成果」についてです。

過去の資料や現状の調査分析による、将来の方向や課題を詳細に検討し、利用間伐やICTの活用など、新たな業務への活用を期待させるものがありました。

一方、更に少し踏み込んだ視点からの考察が加われば、より良い発表になると思います。

次に、優秀発表を選考した結果について申し上げます。

審査方法は、14名の審査委員が発表課題ごとに「テーマの設定」、「創造性」、「考察と成果」、「発表態度」、「資料の整理・わかりやすさ」の5項目から審査しました。

審査結果をもとに、審査委員会で協議した結果、「治山・林道」、「森林・林業」の部門別に合計6件の優秀発表を選定しました。

まず、「治山・林道部門」ですが、3件の優秀発表を選定しました。

その中で最も優秀であった、発表 No. 4「森林基幹道土肥戸田線沿線における架線集材についての考察」について、講評をお話しします。

タワーヤーダを用いた架線施業について、車両系施業と対比しながらその有効性を説明している点が明瞭であり、かつ林業イノベーションの先端技術と合わせて有益な施業地の検討を行っており、今後の実地検証が期待される発表でした。

次に、「森林・林業部門」においても、3件の優秀発表を選定しました。

その中で最も優秀であった、発表 No. 3「造林事業におけるオルソ画像活用の検討」について、講評をお話しします。

造林検査等の省力化に向けて ICT 技術を活用した発表であり、調査・分析・問題点の洗い出しがなされており、分かりやすくまとまりのある内容、今後の利用が期待される点を評価しました。

以上、優秀発表でございます。おめでとうございます。

優秀発表につきましては、今後、全国などの発表会に参加いただく場合もございますので、担当課から依頼がありましたら御協力をお願いします。

最後に、今回は県内全域に緊急事態宣言が発令されていることから、6会場での遠隔発表及び聴講者の参加が見送られた開催となりましたが、この研究発表会につきましては、来年度も開催する予定でございますので、日頃の課題へ対応や新たな可能性への取組など、多くの発表が行われることを期待しております。

審査委員長 工事検査課 渡邊勝也